

Close-up!
注目の
学部・学科



同志社大学 神学部

三つの一神教を学ぶ独自の学部

同志社大の前身となる同志社英学校が設立されたのは1875年。校祖・新島襄は「キリスト教主義」に基づいて「一国の良心」となる人材の育成に奔走した。その流れをくむ神学部には現在、世界でも類を見ない独自の学びがある。

神学部は、キリスト教を中心とした文化、歴史、哲学などを学ぶ学部として同志社大のなかでも長い歴史を誇る。しかし2003年、変化が訪れる。きっかけはその2年前に起きた「9・11」、アメリカ同時多発テロだった。神学部長の小原克博教授はこう話す。

「このテロにより、世界中で西洋文明(キリスト教)とイスラーム文明の対立が先鋭化してきました。その際、我々にできることはないかと考えたのです。そして、キリスト教、イスラームにユダヤ教を加えた三つの宗教が対話できる学問的枠組みを構築するために、一神教学際研究センターを立ち上げました」

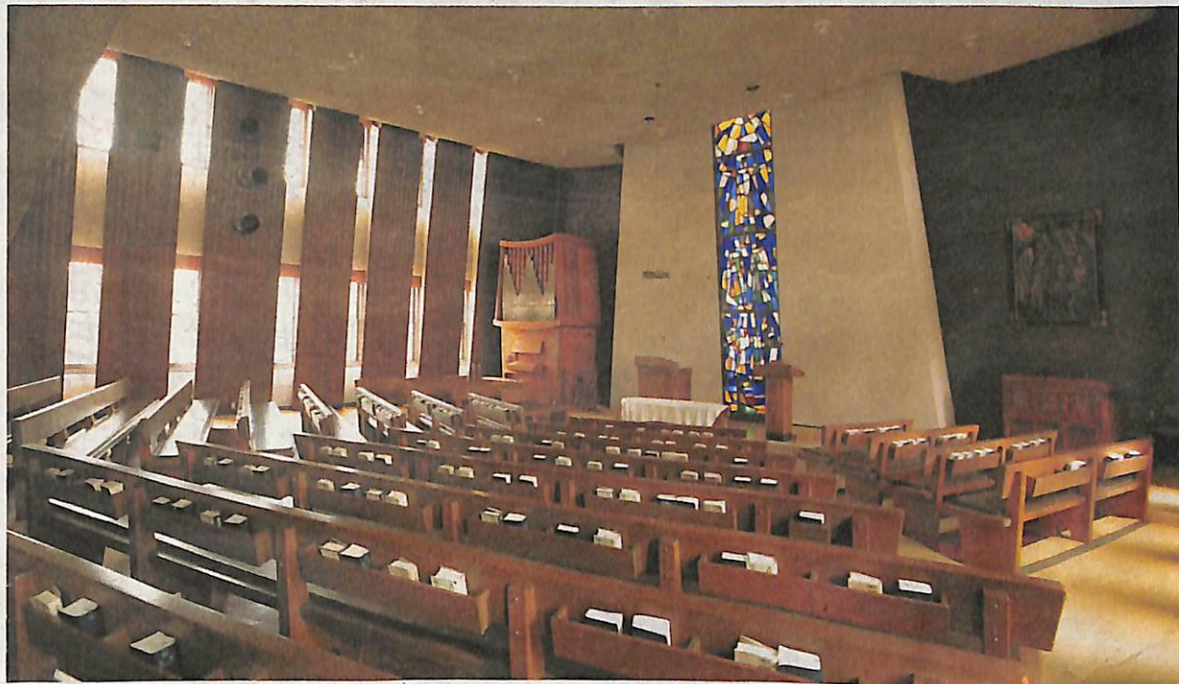
👍 同志社だからこそ可能な学び

これに伴い、神学部も、三つの一神教を学ぶ場となった。入学する学生のうち、クリスチャンは多くても15%ほどだという。

「海外に神学部は多数ありますが、三つの一神教を本格的に学べるのは同志社くらいだと思います。いずれかの一神教徒が多数派の国では、三つの宗教を対等に学ぶのは容易ではありませんが、いずれの宗教も少数派である日本であるからこそ、それが可能になります」

学生たちは三つの宗教を学んだ後、自分が興味のあるものをより専門的に学んでいく。

「一神教を学ぶためには、言語を習得することが重要です。神学部では、聖書ヘブライ語、



アラビア語など六つの外国語科目を独自に設置しています。これも特徴のひとつです」

同志社大は、設立以来、キリスト教主義を掲げており、伝統的に社会福祉関連で活躍する卒業生が多かった。

「その伝統を受け継いでいこうと始めたのが『宗教と社会福祉』という授業です」

これはオンライン授業と対面授業、フィールドワークを組み合わせたもので、実地では、重い知的障害のある人が暮らす「止揚学園」(滋賀県東近江市)で、共に時間を過ごす。

「元来、神学と社会福祉は切り離せないものです。施設での体験は、学生が自分を見つめなおす格好の機会だと考えています」

👍 学びを何のために生かすのか

神学部は1学年の定員が63人と全学部で一番少ない。

「同学年はすぐ顔見知りになりますし、上級生、

同志社大今出川キャンパスには二つの礼拝堂がある。写真は神学部が主に使用する神学館礼拝堂。十字架ではなく茨の冠が掲げられている(撮影/MIKIKO)

下級生との縦のつながりも強くなります」

卒業後の進路は、他の文系学部と変わらず、商社やメーカー、IT系企業など幅広い。小原教授は若者たちにこのようなエールを送る。

「高校までは受験という自己目的のために勉強してきたわけですが、大学はそのような学びからは自由になります。『学んだことを何のために生かすのか』と問い、人や社会のためになる自分の道を見つけてもらいたいです」

(文=AERAムック編集部・原子 禪)

MEMO 1875年に同志社英学校として設立。建学の精神は「良心教育」、教育理念は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」。14学部34学科あり、学部学生数は2万6268人(2020年5月1日現在)。神学部の入学定員は63人(大学院まで含めると学生数347人)。